２０１９年・歴教協第３７回中間研究集会

テーマ「天皇の代替わりと歴史認識・歴史教育　―2019年埼玉大会に向けて」

講演「天皇の代替わりと戦争の記憶」
講師　吉田裕氏（一橋大学）

報告①「小学校社会科をこれからどうするか
～いくつかの歴教協実践から学んで」
中妻雅彦氏（弘前大学）

報告②「中学校歴史学習で何を学ぶか
～未来を志向する自主編成プラン（近現代）」
埼玉歴教協

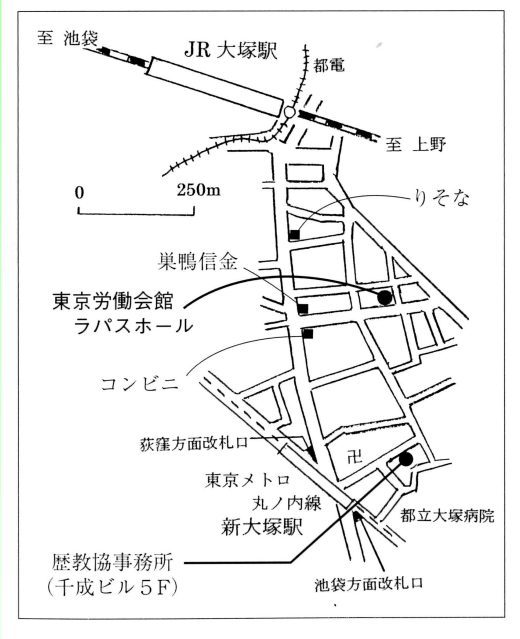
全体会［討議の柱］：憲法を生かした学校・地域をつくろう

1，日時　2019年１月13日（日）10：00～16：30
2．会場　東京労働会館・ラパスホール

時程：講演10：10～12：00，報告①13：00～14：00，報告②14：10～15：10，
全体会15：30～16：25　／資料代：1500円(学生・U25は1000円)

2019年は天皇の代替わりの年です。代替わりにさいし、日本国憲法体制のもとで象徴天皇はどうあるべきなのか、戦争の実相をどう記憶化し語り継ぐべきなのかという課題があります。さらに新学習指導要領のもとで授業方法と内容への統制と干渉が強まろうとしています。

こうしたなかで、歴史の事実に基づく歴史認識・歴史教育のために、これから何を大切にすべきなのか。ともに考えましょう。



一般社団法人　歴史教育者協議会
〒　170 － 0005
東京都豊島区南大塚２－13－８　千成ビル
TEL　０３－３９４７－５７０１
FAX　０３－３９４７－５７９０
E-mail：jimukyoku@rekkyo.org
https://www.rekkyo.org/

2019年・歴教協第37回中間研究集会

歴史教育者協議会

第37回中間研究集会では次の2つのねらいからテーマ「天皇の代替わりと歴史認識・歴史教育 ―2019年埼玉大会に向けて」を設定しました。

サブタイトル「2019年埼玉大会に向けて」は、2019年夏の歴教協全国大会を埼玉で開催する予定であり、中間研究集会はその埼玉大会に橋渡しをする研究集会という位置づけからつけています。

(1)2019年は天皇の代替わりの年です。民主主義国家に象徴天皇制は果たして必要なのか。日本国憲法体制のもとで象徴天皇はどうあるべきなのか。こうした根源的な問題が論じられないまま、改元・即位礼の準備など代替わりへの動きが進んでいます。

その一方で、明仁天皇(平成天皇)が南洋諸島やフィリピンに「慰霊の旅」をおこなってきたことを、戦争での犠牲者を悼み「傷痕が癒されるよう祈ってこられた」と賛美し、多くの犠牲を出した昭和天皇の戦争責任、政府の戦争責任・戦後責任をないがしろにしようとする動きがあります。果たして、平成天皇の「慰霊の旅」は、今に生きる人びとが餓死、海没死、特攻死など無残な死を遂げた兵士、戦死した年月日、戦死場所さえ正確に分からない兵士、戦後いまにいたるも補償されずにいる民間被害者など戦争犠牲者の実相を記憶化することになった旅であったのでしょうか。

戦後70年が過ぎた今日、悲惨な戦争を直接体験した人びとの多くがすでにこの世を去りました。過去の戦争に直接責任を負うべき人びともすでにこの世を去りました。しかし、アジア太平洋戦争の最中、天皇の名のもとに日本人だけでも310万人の軍人・民間人が犠牲になりました。また、旧日本軍のアジア侵略戦争によってアジア諸国で2000万人以上におよぶ人びとが犠牲となりました。これらのことをもはや終わった問題としたり、さらに平成天皇の「慰霊の旅」がアジア諸国での犠牲者に向けられていたのか、と問うこともないまま、天皇の代替わりが進むとすれば、それは戦争の記憶をより曖昧にしようとするものであると言えるでしょう。

吉田裕さんには、15年におよぶ戦争の実相と、天皇の代替わりにさいして、その戦争の実相をどう記憶化し語り継ぐべきなのか、ということについて講演をお願いします。講演をもとに集会参加者が、日本国憲法と象徴天皇制、天皇の代替わりの問題とともに、戦争の実相、戦争責任・戦後責任、歴史教育における戦争体験の継承などの課題を考えてゆきたいと思います。

(2)小学校・中学校・高校を通しての新学習指導要領の全体像が明らかになりました。新学習指導要領では小中高において共通し「アクティブ・ラーニング」という用語が「主体的・対話的で深い学び」という表現で用いられています。それにともない教育行政は、あらかじめ定めた授業パターンを用い「主体的・対話的で深い学び」を広げようとしています。こうしたなかで、決まった授業方法だけを押しつけられるようなことがないように注意を払うことが求められています。また、子どもが「どのように」学ぶのかを追究するだけではなく同時に、これまでの小学校、中学校、高校の社会科実践を踏まえて「何を」学ぶべきなのかを考えることも重要なのではないでしょうか。

こうした視点で、小学校社会科について、中妻雅彦さんに「小学校社会科をこれからどうするか～いくつかの歴教協実践から学んで」というタイトルで報告をお願いします。

中学校社会科については、岩田彦太郎さん(埼玉歴教協事務局長、中学校歴史分科会の代表世話人)と小堀俊夫さん(埼玉大会の現地実行委員長、中学校歴史分科会の世話人)とが中心になって埼玉歴教協として集団的な討議をしレポートをまとめ、岩田さんが中心となって「中学校歴史学習で何を学ぶか～未来を志向する自主編成プラン（近現代)」というタイトルで報告をお願いします。

２つの報告をもとに集会参加者が、新学習指導要領後の社会科教育・歴史教育のあり方、「今、社会科に求められていることは何か」「日々の授業、あるいは今の世の中で何が大切か」を論議し深めていきたいと考えています。